

ゲートの会



日本の未来を拓くよすが（拠）を求めて
 -日本の近代化を導いた人々の思想と行動、その光と影を追う-

日本社会の古層から日本的なるものを発掘した人物
 (Part II 思想・文学分野)

松平定信と和歌の思想

講師： 錦 仁 先生

【講演要旨】

奈良時代から今日へ途絶えることなく続いてきた和歌。明治以降は短歌という呼称が一般的ですが、日本人は今も三十一文字の表現を止めようとしません。日本人の心の表現として、永遠に続いていくだろうと思われまます。なぜ日本人は和歌を棄てなかったのでしょうか。

日本最初の歌論は『古今和歌集』の序文。和文で書かれた仮名序と漢文で書かれた真名序があります。研究史によれば、どちらも中国の文学理論を忠実に模倣したものだといえます。ならば、和歌の独自性はどこにあるのでしょうか。こういう観点が従来の研究史には欠けていました。

今回は仮名序をとりあげます。そして、そこに説かれた和歌の思想が、平安後期の源俊頼や藤原俊成を経て江戸時代の僧契沖たちに引き継がれ、和歌の実作に反映されたことを明らかにします。さらに松平定信は、かれらの和歌の思想をふまえ、和歌と漢詩の詠める歌枕・名所を数多く有する国づくりに邁進し、その気運が全国の藩主たちの間に広まりました。和歌に包まれた美しい国、これが松平定信のめざしたことであります。

日本の文化にとって和歌はいかなる役割を果たしたのか。これまでの常識を打ち破って新しい学説を提案したいと思います。

【講師略歴】

1947年山形県生まれ。新潟大学名誉教授。専門は日本古典文学。著書に『中世和歌の研究』（桜楓社、1991年）、『浮遊する小野小町一人はなぜモノガタリを生みだすのか』（笠間書院、2001年）、『東北の地獄絵一死と再生』（三弥井書店、2003年）、『小町伝説の誕生』（角川選書、2004年）、『なぜ和歌を詠むのか一菅真澄の旅と地誌』（笠間書院、2011年）、『宣教師 堀秀成一だれも書かなかった明治』（三弥井書店、2012年）など。

日時： 2016年 3月 23日 (水) 18:00～20:30

会場： 公益財団法人国際高等研究所

参加費： 2,000円 (交流・懇談会費用を含む)

定員： 40名 (申し込みが定員を超えた場合は抽選)

申込： 「参加申込書」(裏面)によりお願いいたします

詳細： <http://www.ias.or.jp/public/goethe.html>

しめきり

3月18日(金)

必着

参加申込書

- 下記に必要事項を記入して、FAX 又は郵送でお申し込みください。
- E-mail でのお申し込みの場合は、以下の内容を記載してお申し込みください。
- なお、申込書記載の個人情報は、当会の開催ご案内等を行うために使用させていただきますが、外部に公開することはありません。

◆ お問い合わせ、お申し込み先 ◆

〒619-0225 京都府木津川市木津川台 9 丁目 3 番地

公益財団法人国際高等研究所 事業部

けいはんな「ゲーテの会」事務局

E-mail : goethe0828@iias.or.jp FAX : 0774-73-4005

第 33 回 満月の夜開く けいはんな哲学カフェ 「ゲーテの会」 2016 年 3 月 23 日 (水) 開催		
お名前		
ご所属		
部 署		
役 職		
連絡先	ご住所	
	TEL	FAX :
	E-mail	

■ 会場案内

